

令和2年度 第2回社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日時 令和2年10月20日(火) 午前9時30分～10時30分
- 2 開催場所 人材かがやきセンター研修室(中央生涯学習センター5階)
- 3 出席委員 16名  
河田委員長, 内藤副委員長, 菅野委員, 鈴木克伸委員, 今井政範委員, 小林純枝委員, 松本委員, 石塚委員, 福田委員, 小林剛委員, 深津委員, 熊倉委員, 小池委員, 佐々木委員, 若園委員, 今井恭男委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 内容
  - (1) 報告事項
    - ① 令和3年宇都宮市成人式について
  - (2) 協議事項
    - ① 「社会の要請」への対応に関する提言について

7 発言の要旨

河田委員長	報告事項①「令和3年宇都宮市成人式について」事務局より説明をお願いします。
事務局	【資料について説明】
河田委員長	はい, ありがとうございます。ご意見, ご質問等ございましたらどうぞ。
河田委員長	今回は新型コロナウイルスの影響で, 様々な部分で変わっていると思いますが, 新しい成人式のあり方というものを考える機会にもなるのかなと思いますので, よろしく願いいたします。 それでは協議事項に入ります。今回協議する「社会の要請」につきましては, 前回の会議から検討を開始し, 委員の皆様から様々な意見等をいただきました。今回も机の上には, 事務局へ提出できる意見書が置いてありますので, もし, この場での発言が難しい場合には, じっくり考えた上で意見を出していただいても参考になると思いますので, よろしく願いいたします。 それでは, 委員の方達の意見が出やすいよう簡潔な説明を事務局よりお願いします。
事務局	【資料について説明】

河田委員長	<p>資料は、事前にある程度読まれているかと思いますが、皆さんの意見を取り入れながら課題を拾い上げ、スケジュールどおりに進めていきたいと思っておりますので、各領域、各分野における課題を出していただければと思います。</p> <p>今回は、網掛けの部分が新たにとりあげている課題となり、ICTなどもそうですが、最後の自然災害のことに関しても、社会教育としてどう関わっていくか、皆さんの御意見などをいただければと思います。</p>
今井政範委員	<p>「社会の要請」の中に虐待やいじめ、自死など、暗い話にはなっていますが、そういう方々をどう救うのかということが「社会の要請」になってくるのではないかと思います。そういう点はどこかに含まれているのでしょうか。</p>
事務局	<p>こちらの提言書につきましては、社会教育委員の会議として、社会教育の取組に結び付けていくことを見据えながら、課題の整理を行っております。御意見をいただきましたいじめに関しては、社会教育の中でどのようなアプローチをしていくか見据えた場合、社会性や規範意識を向上する取組などの中で捉える部分が大いかに考えております。そのため、提言書（素案）の中には、いじめなどの言葉自体を記載してはおりませんが、(4)「規範意識・社会性の低下」の中に含めていくのではないかと考えております。</p>
今井政範委員	<p>ちょっと今のままではわかりづらくピンとこない部分もあるので、「子どもの育ち」を考えるのであれば、その中でそういうことも考えていくのが普通なのではないかなと思いますが、いかがでしょうか。</p>
福田委員	<p>似たような話ですが、そういったいじめなどから、不登校やひきこもりに関することも入れた方がよいのではないかと思います。そういった状態がずっと続いていってしまうと、先の社会教育が崩壊につながっていくと思うので、早いうちに手を打っていかないといけないのかなと思います。外国人への対応というのも時代の流れで重要ですけど、子どもたちがくまなく社会に出ていくというのが社会教育の基盤になっていくのではないかと思います。学校教育とちがってしまふ部分もあると思いますが、ゆくゆくは社会教育につながっていくことだと思っておりますので、抽象的に触れるのではなく、しっかり言葉で触れていただいた方がよいのではないかと思います。</p>
河田委員長	<p>事務局の方から何かありますか。</p>
事務局	<p>提言書（素案）の2ページになりますが、(2)「子育て・子育て環境の変容」への対応というところにも家庭教育や子どもの体験活動、学校・家庭・地域の連携といった部分がございます。ご意見をいただいた課題に対して社会教育としてどこまで切り込んでいけるか明言はできないのですが、こういった中で、また、先ほどお話しした「規範意識・社会性」といったところで総合的に触れていくのか、もう少し</p>

しピンポイントで触れていくのか、案を考え、また協議していただければと思います。

小池委員

虐待・いじめ・自殺など、今出された意見に関係してくると思うのですが、こちらの資料には「学びの場などへの参加が難しい家庭への支援」という課題が出ております。しかし、逆に、学びに積極的に出てくる親の自己肯定感の低さをとても感じており、親としての自己承認欲求や自己保存の欲求がすごく強く、そのアンバランスな心が、自分の思い通りにならないことをきっかけとして子どもへの虐待につながったりすると最近すごく感じます。子どもは、やはり小さければ小さいほど、お父さんお母さんのことが大好きですから、我慢の意識がなくずっとため込んでしまい、小学校、中学校にまでなって学校にいけなくなったり、人と関わることができなくなったり、あるいは家庭内暴力になったりなどのケースが見受けられます。学習の中で、こうすると良いという話はよくありますが、それをできないからといってダメなお母さんということではない、などの発信がちょっと少ないのかなと思っています。最近、ミュンヒハウゼン症候群なども、よくテレビで取り上げられるようになりましたが、私は良いお母さんでしょ、こんなに頑張っている、というのを誇張する方も増えてきていると感じているので、なぜ子どもたちの虐待や自殺が起きるのか、その根本の話し合いがなされないまま、現状に対してやることを積み上げていっても、ちょっと薄くなってしまいかと思います。これは、先ほど福田委員のお話にもあったとおり、ずっと連鎖していってしまうものなので、この先の子どもたち、これから生まれてくる子どもたちのためにも、今、目を向けて改善していくように社会教育として何か取り組んでいけたらよいのではないかと思います。

河田委員長

大きな枠からすると、子育てに悩むことが全てにつながっていて、学校教育があり、それを取り巻く形で社会教育がありますが、乳幼児期における家庭教育で子どもたちにどのような影響を与えるかは、様々な学会でも発表されているほど、ここに全てがかかってしまいます。何か問題が起きるとすぐに小・中の義務教育課程に問われる部分がすごくありますけども、それが人格の形成などの基本ができてくる乳幼児期からのことだとやっと言われるようになってきました。乳幼児期からの教育には、社会教育に限らず、子育て会議など様々な分野が関わっていると思いますが、社会教育ではどのように関わっていくのかということが、もう少し物足りないのかなと思います。例えば家庭環境における格差、環境ですが、経済的な環境など様々な環境で様々な状態のケースが出てきていて、複雑で多様な課題が出ている現状があると考えているので、家庭教育というものに対して、社会教育はどう関わりを持っていくのか、課題解決に向けてどうしたら良いのかというところを、皆さんの意見を借りながら、今年度にまとめていけたらと私も思います。

若園委員

提言書の(2)「子育て・子育て環境の変容」に、「学校、家庭、地域の連携」がございすけれども、(2)ではなく(1)なのではないかなと思っています。家庭

だけ、学校だけ、義務教育だけになってしまうと、そこだけに矮小化されてしまうのではないかと懸念するところがあり、先ほど意見がありましたいじめの問題等も、原因の1つとして風通しが良くないということがよく言われます。どうしても話を小さくしてしまっているのではないかと感じる報道もあつたりしますので、生まれてから死ぬまで幸せに生きていくためにという社会教育を考えていくのであれば、(1)に関わるのかなと思っておりました。また、つい昨日見た新聞なので、ここでいうのも申し訳ないのですが、40代くらいの就職氷河期にあっていた世代の方たちというのは、今、結婚ができないとか、仕事ばかりだが老後はどうするかということもあつたりする中で、そういうことも課題に入ってくるのではないかと考えております。ただ、つい最近の話で、私も深く考えられてはいないことですので、参考程度としていただければと思います。この学校・家庭・地域について、学校を大事にするというよりは、社会、地域を大事にするという視点で捉える必要があるのではないかなと感じました。

佐々木委員

別紙1で、例えばICTとグローバル化については、非常に重要ですが、社会教育委員の会議なので、社会や地域というものを冷静に捉え、その地域、地域社会におけるICT化、グローバル化という発想が重要だなと感じました。全体としては、ICTや地域社会などの課題がありますが、今回新たに含まれた課題が独立してしまうということになりかねないので、地域社会というものをベースに置いて考えていくことが重要かなと思います。提言書の説明については、基本、その通りだなと感じたところです。それと、「自然との共生」における「地球規模での自然環境の変化」も重要で、今後、SDGsを気にしていかななくてはならない状況になっていますので、もう少しSDGsを記載しても良いのかなと思っておりました。大枠で、新たに出てきたものについても基本賛成しております。また、提言書において基本は地域社会ですが、関連するところは様々ありますので、国際理解、多文化共生はやはり重要なキーワードだと思っております。

河田委員長

ありがとうございます。他に何かございますか。

河田委員長

今年は、新型コロナウイルスの感染防止対策の関係で、オンラインという言葉が聞くのが日常茶飯事であり、学校に限らず様々なところでもオンラインという話が出ております。私の共和大学や、宇都宮大学でも同じようにオンラインという形での授業をやっているかなと思いますが、私共の方では学生の要望もありまして、6月から対面での講義を行っております。講義に関しては、座席指定など様々な部分である程度の強制力をもって学生を受けさせないといけないなど、新型コロナウイルスの影響で相当な変化があった中、今年の1年生は非常に表現が少なくなっていると感じます。様々な気持ちが様々な形で中断されたり交流がなくなったり、その中でITなどの形でどんどん未来化されて、今は情報化社会なので当然そういった情報技術も使いこなさなくてはならないというのがありますが、それにあまりにも特化してしまっています。人との関わりは人が育つ1つのベースになっていると思

いますので、なくなることはないと思いますが、対面的な交流などが減っていつている状況の中では、様々なトラブルが出てくることなども考えないといけないのかなというのがありました。それと、もう1つ大きな課題として「自然との共生」における災害の中で、50年に1回、100年に1回という言葉は、毎年起きているのでもうなくなるのかなと思います。今年のちょうど10月の台風では、私は栃木市に住んでいますが、栃木市でも大都市宇都宮でもたくさんの被害を受けてしまい、こういった災害はもうどこでも起きることなのかと思いました。そういった災害に対して、ハード面をどうするかということはすぐに考えますが、そうではなくて、様々な生活などある中で、子どもたちに限らずどうしたらよいのかということを考えていかななくてはならないのかなと思います。社会教育の中で、何かなくなってしまったものを取り戻せ、作れというのは難しいので、なくなった社会の中で社会教育としてどのように関わり、つないでいくか問われていくことがあるのかと思います。そして、先ほど子どもたちの問題が出ましたけども、これは、学校教育について私はいつも言っておりますが、先生方はもうやることがありすぎてアップアップしている状況であることを考えてほしいと思います。だからといって先生方がやっていないということではなくて、当然、対策をとりながらやっておりますが、それでも、人手も足りなくなっている部分がありますし、時間が足りないというのもありますので、そこに社会教育という世界で、学校や家庭など様々なところの支援をきちっと考えていかななくてはならない時期でもあるのかなとも思います。その辺りを考えながらぜひ良い提言を考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

他に何かございましたらどうぞ。

今井政範委員

別紙1の高齢者のところで、「介護予防や栄養についてなどの健康づくり」という言葉が書いてあります。健康とは心の健康などもあり、言葉の中にはそういった解釈も含まれているとは思いますが、そういうところは書かれてはいませんかでしょうか。

事務局

そのような心の健康といった部分も含んでおりますので、先ほど子どものいじめや虐待などについてもそうですが、抽象的ではなくはっきりした言葉で記載することも考えていきたいと思ひます。また、学校・家庭・地域などでの教育など、教育分野を中心として対応できるものもあれば、先ほどの虐待やいじめもそうですけども、課題が複雑になってきている中では、福祉分野や健康分野など色んな分野にまたがった課題もあります。そのため、具体的な課題の記載とあわせて、教育だけでなく、他の分野との協力や連携もしていかななくてはならないということに記載しながら、取り組んでいくことを明確にできるよう工夫していきたいと思ひます。

河田委員長

他にございましたら。

小林委員

私は海道小で活動しております。あまり関係ない話かもしれませんが、地域で土

地改良をやろうという動きがありまして、土地改良に関して来年から動き始めるのですが、農家をやっている方はやはり平均して70歳近くとなっております。年齢に関係ないというのが農業でもありますが、土地改良に関して国の意向などがありまして、田んぼの水の水位、水の出し入れ、雨水がどうだったなども全部自動でやってデータを飛ばして、携帯で知るといった形などを取り入れており、お年寄りもこれからICTを活用する必要が出るなどしている現状があります。

菅野委員

皆さんのお話を伺って、家庭と学校と社会教育がつながっていかなくてはならないというところで、特に本校は工業高校ですので、7割が就職、3割が進学となっております。このコロナ禍において、1ヶ月遅れの就職試験が先週の10月16日に解禁となりました。これまでになかった対応の形として、オンライン採用試験というもの、十数名、対応せざるを得なくなりました。生徒たちは、スマホでのゲームなどを毎日のようにやっていたとしても、オンライン面接なるものは初めての体験で、そのための準備、機器の設定、また、会場や学校全体でチャイムを止めようなど、生徒たちが力を発揮して進路実現できるように工夫をしております。オンライン面接は昨日も数名、それ以外の大体はそれぞれの企業において採用試験を行い、また、大手企業は、これまで会社の中で採用試験を行っていたのが、万が一のことを考え、別な会場を用意して採用試験を行うなどしてございまして、今、進路指導においては大変苦勞をしております。同じように大学への進学においても、オンライン面接、オンラインオープンキャンパス、そのような状況の中でやっていかなくてはならないのですが、生徒たちはもうこの現実を受け止めてやっていくしかないという状況になっております。私たちは、日ごろから生徒たちにかわいそうだな、残念だなという言葉ではなく、将来、「あの時こういう対応を乗り越えたから今の自分がある」と自分が自信をもって言えるようにがんばれと話しております。今回の社会教育の話と少し離れると思いますが、工業高校としての現実をお話させていただきました。

河田委員長

他にございましたら。

内藤委員

コロナ禍の中では、オンラインや3密を避けてということが中々難しいところでもございました。その中で色々な資料案内等も来ておりましたが、3月からだったと思いますが、仕事というのはできず、外部の人を入れずに施設の利用者と職員だけで対応していた状況でございます。しかし、各学校の実習生だけは資格の関係もございまして、受け入れてはございましたけども、消毒の徹底などの対応の中で行っております。今回、障がい者の関係も提言書の中に少し入ってはございますが、地域との関わり、障がい者の方々も地域で安心して一緒に暮らせるための話もしていただけたらと思います。

ありがとうございました。

河田委員長

オンラインの話も出ましたが、大学で4月にオンラインでの授業が始まり、学生

事務局

は学校に来なくて喜ぶのかなと思っておりましたが、いつ学校を開いてくれるのかという要望の方が強くなりました。それは、あまり考えたことはなかったのですが、学生は学校に来たいのだなということ、そして、今ではウチの大学は対面で授業をやってくれてありがたいよねと言ってくれる学生がいるということは、学びたいのだなという意識を強く感じました。

このような形で皆さんのご意見をお伺いしましたけども、他にございましたら。

他にないようでしたら、机の上に意見等を記入する用紙がありますので、こちらをご記入いただき、送っていただければ参考にさせていただきたいなと思います。そして、スケジュール通りに進めていきたいなと思いますので、今度は課題の解決法にいきますので、よろしくお願ひしたいなと思います。

これで本日の議事は全て終了となります。

それでは、「その他」ということで事務局の方にお返しいたします。

河田委員長，進行ありがとうございました。

それでは，次第の6「その他」になります。

事務局より連絡事項について説明させていただきます。

**【次回の会議日程について説明】**

本日は長時間に渡ってのご審議，誠にありがとうございました。

以上をもちまして，令和2年度第2回社会教育委員の会議を閉会いたします。